

# 当社の強みである研究開発部。日本のモノづくりの発展のため 「Nitto Technical Report」で、 技術情報を公開しています

～国立国会図書館のデータベースから閲覧ができます!～

日東精工は毎年「日東テクニカルレポート (Nitto Technical Report)」を発行しています。当社技術を外部に広く公表し技術力の高揚を図り、当社の技術に対する積極的取組み姿勢を鼓舞し、イメージアップならびに会社事業の進展を図ることを目的にするものです。今号では当社がこのテクニカルレポートを発行し続けている意義をご紹介します。



1963年の創刊号。

「日東テクニカルレポート」は1963年に創刊。当初は「日東ニュース」というタイトルでした。折しも東京オリンピックが開催される前年で、高度経済成長期の真っ只中。当時、急速に市場への普及が進み、ねじのスタン

ダードとなった十字穴付きねじについて、お客様をはじめとした関係者に、これをより深く理解してもらおうと発刊されたのがはじまりです (1968年発刊の15号から名称を「日東テクニカルレポート」に変更)。

創刊号の巻頭言には、毎号続けることで「十字穴付きねじのハンドブック」になるよう編集していくといった、次号以降の編集への意気込みが述べられており、今にいうファイルマガジン (分冊百科) 的なものにしようとしていた思想があったことに驚きます。そして、十字穴付きねじの技術情報提供を想定しつつも、将来的には当社の研究開発成果を外部に発信するための媒体として、永久に続いていくものにしたいとの想いが語られ、これが現在の最新79号まで発行を重ねてきた、ま

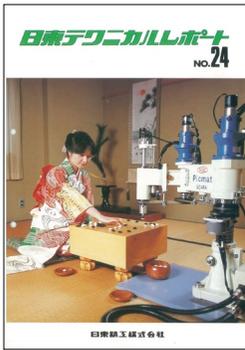
さに原動力となっているのです。

## 三事業部と研究開発部の そのときどきの「集大成」

モノづくりの会社にとって研究・開発は基本の“キ”、車でいえばエンジンです。

日東精工にはファスナー事業、産機事業、制御システム事業の3つの柱があり、それぞれの事業に技術開発者を配置しています。どんなに優れた製品を世に出しても、お客様がそれを必要としなければ意味をなしません。自己満足のレベルに留まらず、徹底的にお客様の立場に立ってその要望に応える。そしてさらにその半歩先、一步先を視野に入れるのが真のプロフェッショナルですが、私ども日東精工は、締結、計測、検査分野におけるプロとして、「今日のベストは明日のベター」という考えのもと、日々製品の改良改善に努めています。臨床経験が豊富なお医者さんが患者さん一人ひとりに寄り添い、常にベストの道を選択し名医と呼ばれるように、当社もそのときどきの「最善」を尽くし、お客様の信頼を得ています。

さらに、当社には現場に近い技術開発とは別の、各事業の枠組みにとらわれない、いわば「基礎研究」に当たる研究開発部があります。ここが既存



「日東テクニカルレポート」は当社の技術史としての側面をもつ。スカラロボットの国産機を開発し、その量産化にもいち早く成功した当社として、その後の国内のスカラロボットの発展と普及に大きく貢献。このスカラロボットの研究は、現在の当社のねじ締めロボット事業の発展にも大きく寄与することとなった。

製品のバージョンアップという方向性とは違う、従来にない新しい価値を創造する役割を担っています。次代、次々代に向けての技術開発を目指す部門です。それでも研究開発部は、〈我関せず〉と他とは別の道を歩むものではなく、ファスナー、産機、制御システム事業の技術・開発のサポート、あるいは各事業部連携の仲介、媒介の役割も担っています。三事業部の知見・経験が新しいものを生み出す原動力にもなっているのです。

つまり、3つの事業それぞれに技術開発者がいること、さらに既存事業を離れたところで全体を俯瞰できる研究開発者がいるということが、当社日東精工の強みであり、そのときどきの強みの一端を紹介しているのが、この「日東テクニカルレポート」というわけです。たとえば最新の79号では異種金属接合「AKROSE」について、研究開発部の担当、ファスナー事業の担当がそれぞれの立ち位置でレポートを発表していますが、執筆者が多岐にわたっているということが、その強みの何よりの証といえるでしょう。

## 市場の理解を深めるために 試行錯誤や技術障壁を公開

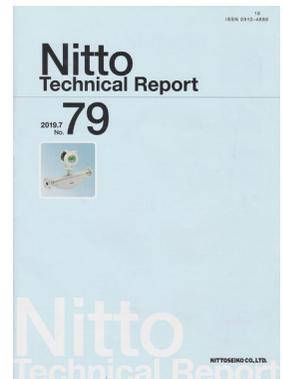
既述のように三事業部、またそれを俯瞰する研究開発部があることが当社の強みですが、変化が激しい時代にあっては、他の業界のトップや新規分野と連携していくことも重要です。このニューズレターでも随時紹介していますが、当社では産学連携やトップ企業とのコラボレーションも積極的に進めています。2年前に京都大学の平尾一之名誉教授を社外取締役を迎え、「京都R&Dセンタ

一」を設立したのも、いわゆる「脱自前主義」を進めていくためです。外部の力を得るためには情報を開示していくことも必要です。厳しい意見や批判にさらされても、それを真摯に受け止めていくことで、より良いものが生まれていきます。「日東テクニカルレポート」を発行する意味、技術情報を開示している意義もここにあるのです。

技術開発はともするとクローズドな環境で終始してしまいがちですが、技術開発の成果である製品だけを世に出すだけでなく、完成までにどのような技術障壁があったのか、技術者の試行錯誤があったのか、こういう部分を公開していくことで、技術開発の成果である製品に対する市場の理解が深まっていきます。当社に対する信用についても然り。「日東精工ならしっかりした技術的な裏付けをもっているから大丈夫」「日東精工なら技術的な問題が起きても解決できるだろう」と、そう思っただけなのが、より一層の製品や研究成果の普及、ひいては当社とお客様相互の事業発展につながっていきます。

「技術情報」を公開して大丈夫なのかという声があるかもしれませんが、屋台骨がしっかりしている自負があり、また日本のモノづくりの発展のためにも共有できるものは共有するという想いから、1963年の創刊号から「国立国会図書館」に献本し、だれもが閲覧できるようにしています。またこの「日東テクニカルレポート」が社内の人財教育や営業活動の一助になっていることはいうまでもありません。

今年7月発行の最新号・通巻79号。  
巻頭は堤定美京都大学名誉教授の寄稿「医療機器に関する国際規格の動向—医療機器承認基準との関係」。そのほか研究開発部の八木澤正史・村田知明による「AKROSEの成形解析」、ファスナー事業部の山本浩二・手島政和の「冷間圧造技術を活かした異種金属接合技術『AKROSE』の開発」、産機事業部・坂根圭の「位置補正カメラ付きねじロボSR565Yθ-Z-VRシリーズの開発」、制御システム事業部・白波瀬雅史の「スクリュウポイントに作用する荷重・トルク計測システムの開発」などを掲載。



## 綾部市市民センターの愛称が「あやべ・日東精工アリーナ」に!

日東精工は今秋オープン予定の綾部市市民センターのネーミングライツ（命名権）を獲得。

7月29日に綾部市役所で、山崎善也市長と当社代表取締役材木正己が出席のもと、契約・調印式が行われました。当社では創業以来「地域とともに発展する」という基本理念を掲げています。ネーミングライツを通じ、新しい市民センターの運営をサポートすることで、本社をおく地元・綾部市の活動を応援するものです。老若男女、幅広い層の方が利用する公共施設に当社の冠がつくことで、地元の方々には日東精工をより身近なものに感じていただければと願っています。



写真上は契約・調印式。山崎善也市長（左）と材木正己。下の写真は綾部市駅北に本年10月にオープンする綾部市市民センター（あやべ・日東精工アリーナ）。

## 第54回「地盤工学研究発表会」で「ジオカルテⅢ SDS typeF」を披露!

さいたま市ソニックシティで7月16日から18日まで開催された「第54回地盤工学研究発表会」（技術展示コーナー）に、当社制御システム事業部の地盤調査機「ジオカルテ」を出展しました。最新型「ジオカルテⅢ SDS TypeF」は1台でSWS試験とSDS試験を可能とする地盤調査機ですが、SWS試験結果をスマホで確認できるジオサイン(株)の新しいシステム「Geo Web system」や、土質判別・地盤解析・地盤保証を提供するジャパンホームシールド(株)と連携することで、より強みが発揮できるものです。地盤工学研究発表会では3社合同で地盤調査のトータルサポートをデモンストレーションし、好評を博しました。



ジオカルテは同クラスでは国内で圧倒的シェアを誇っており、ニュージーランドやタイなどと産学連携を深めるなど海外での展開も拡充していきます。



## 北米南部のお客様満足度120%に向けて、テネシー州経済開発庁長官と会談

日東精工の連結子会社であるNITTO SEIKO AMERICA CORP.（以下NSA社）は、北米のミシガン州に本社、テネシー州に支店を構え、自動ねじ締め機、ねじ締めロボットの販売を主力として順調に業績を伸ばしています。

NSA社は自動車関連企業を主要顧客としており、自動車関連の工場が集中する南部地域のお客様から、更なるサポート体制を強く熱望されております。その期待に応えるべく、この度、当社代表取締役社長材木正己がテネシー州経済開発庁を訪れ、経済開発庁長官のロルフ氏（写真左）並びに副長官のボーデン氏（写真右）とテネシー支店の今後のビジネスプランについて会談を行いました。南部地域のビジネスにおけるテネシー州の魅力を確認するとともに、NSA社の事業計画を説明し、今後の両者の発展に向けてともに協力して取り組むことで一致しました。





## 秘密が漏れるのは案外、自分からかもしれない!?

### 昔

から「壁に耳あり障子に目あり」といって、どこで誰が聞いているかわからないので他人様の悪口は言わない、大切なことを迂闊に口にするなどいわれてきました。もともと今は障子といってもピンとこない人も多いかもしれません。

映画などを見ていると古今東西、重要機密を手に入れるには、天井裏に忍び込んでとか、盗聴器を仕掛けてというような特殊な世界のように思えます。でも、じつは実際はそれだけではありません。インターネットジェンス（外交活動・諜報活動）の世界で大事な点は点をつなぎ合わせる作業、つまり既に表に出ている情報を組み合わせて、まだ公になっていないものをあぶり出すということです。逆にいえば無意識で話していることが、じつは秘密漏洩につながっているともいえるのです。実際、BlogやFace bookあるいはLINEなど

どのSNSで紹介されている文章の一部や画像に映った背景から住所を特定してストーリー行為に及ぶなど、身近なところで個人情報特定され犯罪につながっているケースも多いようです。

「SNSなどやっていないから大丈夫」という方も、けっして侮れません。安心してはいけません。ふだん何気なく話したこと、無意識で口にしたことを自分で忘れてしまっていることは案外多いのです。

「え、どうしてそれをご存じ?」の、その情報の出元がじつは自分自身からということとは少なくありません。

とくにアルコールが入った席では要注意です。ある外交官の方から伺ったのですが、相手が何を話したかが大事なのはいうまでもありませんが、それ以上に自分が相手に何を話したか、それをしっかり覚えておくことが重要だそうです。あとで振り返って「あ、

これは余計なことだったな」と反省すれば別の新たな戦略も立てられるでしょうし、つい大風呂敷を広げてしまったことを、そのまま放っておいたら、嘘つきや信頼できない人間というレッテルを貼られてしまいます。

電車やバス、あるいは飛行機などの乗り物のなかで仕事の話をしたり、自社やお得意様の会社名がわかる書類を広げたりする方を見かけます。

愛社精神に満ち溢れ、仕事熱心なことはいいことですが、どこで誰が見ているかわからないと十分気をつけたいもの。

もちろん必要以上に神経質になることはありませんし、自由にモノが言えるということとは大切です。こそこそ、ひそひそと悪口を言っているも漏れるものは必ず漏れます。むしろ、いつ見られても、誰に聞かれてもかまわないぐらい、ふだんからきちんとしておきたいものです。

### 連載②

#### あやべ ちょっと寄り道 夏の花火と、よさこいと

日東精工本社のある綾部では毎年「あやべ水無月まつり」が開催され、今年も7月27日に由良川では夕刻の「万灯流し」に続いて、夜には4000発の花火が打ち上げられました。当社はこの花火大会を特別協賛しているほか、同まつりで開催される「よさこい（良さこい）」にも、若手中心のチーム「日東よさこい連」で積極的に参加をしています。これからも夏の風物詩を守り、伝統を次代へつなぐ活動をサポートしていきます。

